

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名	湘南医療大学
所 属	保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻
名 前	森尾裕志
作成日	2023年9月30日

1. 教育の責任

私は、湘南医療大学保健医療学部理学療法学専攻（看護学科 140 名、理学療法学専攻 40 名、作業療法学専攻 40 名）において、主として理学療法学専攻学生の専門教育科目を担当している。理学療法学専攻は、厚生労働省が認める国家資格である理学療法士免許の受験資格を与えることを主な目的としている。湘南医療大学では卒業必要単位数として総合教育科目 27 単位、専門基礎科目 34 単位、専門科目 66 単位を履修することが定められている。専門科目の 66 単位のうち、外部の病院で行う臨床実習 20 単位を除いた 46 単位について助教以上の担当教員 14 人で実施している。私が担当している科目は、専門基礎科目である運動生理学（1 単位、8 回）、専門科目（基礎理学療法学）で理学療法教養基礎（2 単位、2/15 回）、専門科目（理学療法評価学）でクリニカルリーズニング論（1 単位、2/15 回）、専門科目（理学療法治療学）で老年期理学療法学（1 単位、6/8 回、科目責任者）、呼吸・循環系理学療法学（1 単位、8/15 回、科目責任者）、代謝系理学療法学（1 単位、4/8 回）、呼吸・循環系理学療法学演習（1 単位、8/15 回、科目責任者）、理学療法特論（1 単位、オムニバス、科目責任者）を担当しており、いずれも必須科目である。保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻を卒業したほとんどの学生は理学療法士として病院や施設で障害を持った人々にリハビリテーション訓練を実施することになる。彼らが対象とする患者たちの障害増は同じものではなく、学校で習った知識や技術をそれぞれの障害増に合わせるための工夫や、対象者に対する説明能力を養うために、理学療法特論 I や理学療法研究法演習、そして理学療法卒業研究を担当している。

湘南医療大学大学院の授業では、呼吸循環機能学特論（2 単位、7/15 回、科目責任者）、呼吸循環機能学演習（4 単位、14/30 回、科目責任者）を担当しており、このほかに大学院生 3 名に対して主たる指導教員として修士論文の研究指導（心身機能回復特別研究、10 単位、75 回）を行っている。添付資料に本学が開校（2015 年度）以降に担当した科目を列挙する。

2. 私の理念・目的

私は湘南医療大学の教員として採用された時（2015 年度）から、以下の三点を重点に置いた理念を心がけてきた。一つは、今後の医療、福祉を支える人材づくり。二つめは、大学と関連病院間での臨床研究の実施。最後に、卒前からの多職種連携教育の導入である。以下に、この三点について、詳細を述べることにする。

1) 今後の医療、福祉を支える人材づくり

対象となる学生は 10～20 歳代の青年がほとんどとなる。この青年たちは、今後の日本の医療、および福祉を構築していくべき人材であり、それらを支える人材である。私は、医療の現場で力を発揮するためには、以下の二つの条件が必要であると考えている。一つ目は、自らの行動を考え直すこと、またその精神力を保つこと。もう一つは、自分の考えを行動に

移すための行動力を持つこと、である。つまり、考えを伴わない行動は、事故につながるし、考えばかりで行動に移せないことは、結果、何も生み出せないことになる。患者に対する理学療法への介入に答えは無いが、様々な経験や、論文を礎にし、より最適な方法を患者に提供する事は可能なはずである。

私は前職の臨床現場（聖マリアンナ医科大学病院）において、「臨床」、「研究」、「教育」の三要素を意識しつつ、一体化して捕らえるようにと教わってきた。例えば、研究であるが、臨床で感じた疑問点をリサーチクエッションとしてまとめ、方法を考え、最適な結果を導き出す、これを再び臨床に還元することが良いサイクルにつながる。また、新しい技術や知識を浸透させ、教育していく。より多くの介入方法を選択できるように、後進たちに伝えていく。このように、「臨床」「研究」「教育」の三要素を組み合わせることで、常に新しい理学療法を患者に提供できる利点がある。そのサイクルを繰り返していく中で、私は、何度か患者から感謝され、理学療法士になって良かったと思える瞬間が幾度かあった。この喜びを、これから育っていく青年たちにも体験してほしいと考えている。そのためには、心身一如を備え、「臨床」「研究」「教育」の意識を、卒前から持ってもらい指導が必要であると考えている。

2) 大学と関連病院間での臨床研究の実施

私は、病院や施設間との関連を保ち、臨床研究を継続したいと考えている。ふれあいグループの強みとして、50あまりの関連施設があり、教育機関としては、臨床が非常に近いという印象を受けている。理学療法の養成校では、多くの関連病院と、つながりのある学校は少なく、そうした養成校では、臨床に即した教育が疎かになっている可能性がある。その点、ふれあいグループでは、臨床場面に即した教育ができる可能性が高いので強みがあると推察している。私は、学生や現職理学療法士の臨床能力を高めるためには、臨床研究が不可欠だと考えている。関連施設のない養成校では、臨床研究が難しいかもしれないが、ふれあいグループには、臨床研究を広めるための土壌がある。関連病院と協力できれば、多施設での研究も可能になると考えている。このグループ内での研修や、研究は、他の法人にはないメリットであり、これは、結果的には、グループ全体としての理学療法士の質の向上につながると考えている。湘南医療大学での教員に採用された暁には、病院や施設間での臨床研究を継続し、お互いに“Win”, “Win”の関係性を保てるように努力したいと考えている。

3) 卒前からの多職種連携教育の導入

私は、医療教育で重要な因子の一つとなるのが、多職種連携教育（Inter Profession Education; IPE）とされている。IPEは、一人の模擬ケースを通して、各職種に応じたシミュレーションを行う手法で、「チームワークが学べる」、「職種の責任が明確となる」、「患者の理解ができる」などの利点が挙げられる。このIPEを卒後教育として、湘南医療大学ではチーム医療論として科目だてされている。寺本学部長がイニシアティブをとられており、賛同

できる。学生からの意見としては「各職種の役割がわかった」、「私は何ができる職種なのか、もう一度考えさせられた」などのコメントがあり、卒前としては十分な効果も得られているようである。湘南医療大学は、看護学科、作業療法学専攻、薬学部を含め4職種を構成することができる。私は、他の単科養成校に比べれば、このIPEが行える土壌は揃っていると感じている。

3. 教育の方法・戦略

1) 座学での授業と、2) 演習系の授業、そして 3) 課外授業での方法・戦略について述べる。

1) 座学授業の方法・戦略

毎回、小テストを行うようにし、授業での落としどころを明確にするように努めた。また、その小テストを行うタイミングについても、眠気が襲う時間帯にあわせて行うようにした。一定の効果が得られていることから、このまま、毎回の小テストは継続することにする。また、学生が該当科目のレジュメを認識しやすいように表紙の色を変更した。学生からは「小テストがあって復習をする機会が作りやすかった」との評価を得ており、功を奏したと考えている。

2) 演習系授業の方法・戦略

アクティブラーニングの導入を心がけている。学生には主となる目標と課題だけを与え、そこに至る過程は自身で考えさせる方法である。野放しにさせるのではなく、適切なアドバイスを入れることを心がけた。学生からは「フィードバックが手厚いので、とても良い経験が得られ自分の技術になり、自信が付くととても良い授業でした」、「実習に行くための緊張感、モチベーションになりました」というポジティブな意見があった。

3) 課外授業の方法・戦略

単位には関わりが無いことであるが、学生には精神的にも物理的にもできるだけ大きな範囲で行動してもらいたいと考えている。20歳代の若者は可能性の塊だからである。そのため自身の講演会や勉強会、学会にも連れ出すように心がけている。コロナ禍で外出制限があり2020年以降は行動が限られてしまったが、2023年度に入り、Covid-19が感染症5類に分類されてからは、もとのように学生を勉強会にも連れ出すようにしている。

4. 学習成果

湘南医療大学で担当しているすべての科目の学生授業評価（5点満点）において4点以上（総合評価）は確保できている。2015年から単独開講している「運動生理学」の学生授業評価（2021年度のもの、5点満点）を以下に示す。「意欲的に受講したか」4.5点、「内容を理解したか」4.4点、「向上はしたか」4.6点、「自ら学ぶ意欲は湧いたか」4.4点、「課題を発

見し探求する力がついた」4.3点、「教員の熱意」4.8点、「教え方は分かりやすかったか」4.6点、「教員とコミュニケーションはとれたか」4.5点、「板書、配布物、掲示資料は読みやすいか」4.6点、「教員は勉学環境に配慮していたか」4.6点、「総合的に判断して良い授業であったか」4.8点であった。自由記述欄では、「眠くならないように間に小テストを挟んだり、学生を当てたりして、ありがたかった」とのポジティブな意見があった。

5. 改善のための努力

理解度を高めるために施したい努力は少人数制で教授することである。時間外であってもできるだけ質問が出来る環境を整えたい。また、正式なコマの前週には教員とのアポイントを取った上での予習時間を設けるように整えたい。これらが教員—学生間のコミュニケーションが基盤にある必要がある。

6. 今後の目標

上記のようなポジティブな意見がある一方、「先生によって評価基準が異なる」といった意見があった。専門性を持つ教員が携わることの利点は大きい欠点もある。教員が指摘するポイントに理不尽なところは無く、視点が異なることからの採点となるが、採点基準については教員ごとの調整が必要なかもしれない。75点をセットポイントとして定義し、教員毎の標準偏差を算出し、ズレるようであれば、調整点を加えるように工夫したいと思う。

以上

【添付資料】

1) 学部生に対する授業

期間	科目
2015年8月10日～現在に至る	見学実習（理学療法）
2015年11月26日～2018年11月27日	運動療法学概論
2015年12月1日～現在に至る	運動生理学
2016年4月14日～2018年5月28日	運動療法学基礎演習
2017年4月6日～現在に至る	呼吸・循環系理学療法学
2017年4月11日～現在に至る	老年期理学療法学
2017年6月5日～現在に至る	代謝系理学療法学
2017年9月25日～現在に至る	理学療法研究法演習
2017年9月28日～2018年11月15日	理学療法管理・リスクマネジメント
2017年9月29日～現在に至る	呼吸・循環系理学療法学演習
2017年11月1日～現在に至る	クリニカルリーズニング論
2017年11月7日～現在に至る	理学療法特論 I
2018年1月15日～現在に至る	評価学実習
2018年4月9日～現在に至る	総合臨床実習 I（理学療法）
2018年4月9日～現在に至る	理学療法卒業研究
2018年6月4日～現在に至る	総合臨床実習 II（理学療法）
2018年10月8日～現在に至る	チーム医療論
2020年7月7日～現在に至る	理学療法教養基礎
2020年12月1日～現在に至る	理学療法特論 II

2) 大学院生に対する授業

期間	科目
2019年4月12日～現在に至る	呼吸循環機能学特論
2019年10月11日～現在に至る	呼吸循環機能学演習
2019年4月8日～現在に至る	心身機能回復特別研究

3) 課外活動での成果(第18回 ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド 福祉用具コンテストにて学生と共に創作した「みせるコルセットの開発」が「JAL 賞」を受賞した(2019年)。

